～令和３年度海ごみ発生抑制に係る人材育成業務～
調査実施結果

日　時：令和３年（2021 年）11 月 27 日（土）9:20～15:00
場　所：高松市男木島（調査場所①：洲鼻海岸（男木島灯台周辺）　調査場所②：大井東海岸）
受講者数：21 名

11 月 27 日（土曜日）21 名の県民が参加して、高松市男木島でビーチクリーンアップモニタリング調査を実施しました。

島内の異なる２か所の海岸で、世界共通の International Coastal Cleanup(ICC)手法（調査時間 20 分間）と水辺の散乱ゴミの指標評価手法を用いて調査と漂着ごみの回収を行いました。

調査方法の説明は、海ごみリーダー養成講座（11 月 13 日開催）に参加した受講生が務め、講座の中で学んだ実施時の留意点などについて説明がされた後、4 グループに分かれてごみ拾い調査をしました。

1 か所目の洲鼻海岸は、直前に海岸クリーンアップが行われており大きなごみは少ない状況でした。事前に回収されていたごみの種類を見てみると、ペットボトルや発泡スチロール、食品の容器などが多く感じました。調査では、破片となった発泡スチロールが多い結果となりました。今回は安全管理のために立ち入りはしませんでしたが、近くの岩場には多くのペットボトルや発泡スチロールが溜まっている様子も目視で確認しました。

2 か所目の大井東海岸も同様の方法で調査を行いました。1 か所目に比べると、破片化していないごみも多く確認できました。破片以外の品目では、生活雑貨、カキ養殖用まめ管、ペットボトルが多い結果になっています。

参加者からは、「生活ごみが多くあった」「多くのごみが溜まっているのはびっくりした」「海岸によりごみの種類が違う」などの意見がありました。

今回のモニタリング調査を通して、陸域から多くのごみが出てきていると気づきがあったようです。今後、私たちの生活を見直し、海ごみの発生を抑制する活動につながればと思います。

各海岸における ICC 調査結果

調査場所	ICC 調査結果（個数が多かった 3 品目）ｔ＝20 分間	回収量
洲鼻海岸	①　発泡スチロール破片 550 個、 ②　硬質プラスチック破片 46 個 ③　プラスチック・発泡スチロール梱包材 26 個	1 袋（45L のごみ袋） 3.2kg
大井東海岸	①　発泡スチロール破片 82 個 ②　硬質プラスチック破片 74 個 ③　生活雑貨 59 個	5 袋（45L のごみ袋） 12.1kg

【International Coastal Cleanup(ICC)】
世界共通の方法で、回収したごみを 45 品目に分類してその個数をカウントします。どのような品目が多いのかを把握し、発生抑制対策にも役立てられています。

【水辺の散乱ゴミの指標評価手法】
海岸を見てごみの量を大まかに調べる方法です。クリーンアップを実施する前や海岸や地域におけるごみの量を把握したりするときに使われている方法です。

【活動写真】

調査場所①　洲鼻海岸（男木島灯台周辺）の様子

多くのごみが溜まる場所でごみの種類確認

海ごみリーダー養成講座受講生による説明

ICC 調査の様子

大きな漂着ごみ

調査場所②　大井東海岸の様子

漂着ごみの状況

海ごみリーダー養成講座受講生による説明

ICC 調査の様子

集合写真